# 研究開発費・ソフトウェア

## 研究開発費

【重要性：A】

**ＰＯＩＮＴ！**

①　研究開発費の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

**主な勘定科目**

「研究開発費」勘定（販売費及び一般管理費）

**研究開発費**とは、新しい知識の発見を目的とした計画的な調査及び探究（**研究**）に関する費用、新しい製品・サービス・生産方法についての計画若しくは設計又は既存の製品等を著しく改良するための計画若しくは設計として、研究の成果その他の知識を具体化すること（**開発**）に関する費用をいいます。

研究開発費には、人件費、原材料費、固定資産の減価償却費及び間接費の配賦額等、研究開発のために費消されたすべての原価が含まれます。

研究開発費は、発生時に「**研究開発費**」勘定（販売費及び一般管理費）で処理します。なお、特定の研究開発目的にのみ使用され、他の目的に使用できない機械装置や特許権等を取得した場合も、取得時に**研究開発費**として処理します。

**例題**　**研究開発部門の給料100,000円と研究開発用の消耗品50,000円を小切手を振り出して支払った。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **研究開発費** | **150,000** | **当座預金** | **150,000** |

研究開発費：100,000＋50,000＝150,000

**例題**　**研究開発目的で機械装置200,000円を取得し、代金は小切手を振り出して支払った。なお、当該機械装置は他の目的で使用することができない。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **研究開発費** | **200,000** | **当座預金** | **200,000** |

# ソフトウェア

**【重要性：A】**

**ＰＯＩＮＴ！**

**①　自社利用のソフトウェアの内容を理解しよう！**

**②　仕訳をマスターしよう！**

**主な勘定科目**

**「ソフトウェア」勘定（資産）**

**「ソフトウェア仮勘定」勘定（資産）**

**「ソフトウェア償却」勘定（販売費及び一般管理費）**

**（1）ソフトウェアとは？**

ソフトウェアとは、コンピュータを機能させるように指令を組み合わせて表現したプログラム等をいいます。

**（2）ソフトウェアの分類**

ソフトウェアは、販売目的（受注制作、市場販売目的）のものと、自社利用のものがありますが、2級では**自社利用のソフトウェア**が出題されます。

なお、ソフトウェア制作費のうち、研究開発に該当する部分については、**研究開発費**として処理されます。

### （３）自社利用のソフトウェアの処理

自社利用のソフトウェアは、顧客へのサービス提供を行ってその対価を得る（**収益獲得**）ために用いられるソフトウェアと、社内の業務遂行を効率的に行うなど社内の管理（**費用削減**）目的等のために用いられるソフトウェアがあります。

① 取得時

自社利用のソフトウェアの制作費（自社で制作する場合）や購入費（外部購入の場合）は、将来の収益獲得や費用削減が確実な場合、「**ソフトウェア**」勘定（資産）で処理します。

なお、制作途中のソフトウェア制作費は「**ソフトウェア仮勘定**」勘定（資産）で処理し、完成時に「**ソフトウェア**」勘定（資産）へ振り替えます。

**例題**　**将来の経費削減に役立つと見込まれるので、自社利用目的で給与計算用のソフトウェア100,000円を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **ソフトウェア** | **100,000** | **当座預金** | **100,000** |

**例題**　**社内利用目的のソフトウェアの制作を外部へ委託し、300,000円を小切手を振り出して支払った。なお、当該ソフトウェアの制作はまだ完成していない。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **ソフトウェア仮勘定** | **300,000** | **当座預金** | **300,000** |

**例題**　**社内利用目的のソフトウェアの制作を外部へ委託し、300,000円をすでに支払っていたが、本日、当該ソフトウェアの制作が完成し、使用を開始した。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **ソフトウェア** | **300,000** | **ソフトウェア仮勘定** | **300,000** |

② 決算時（償却）

自社利用のソフトウェアは**利用期間**（原則として、**５年以内**）を耐用年数、**残存価額ゼロ**、**定額法**で償却を行います。なお、記帳方法は**直接法**です。

ソフトウェアの償却費は「**ソフトウェア償却**」勘定（費用）で処理し、損益計算書においては、原則として、**販売費及び一般管理費**に計上します。

**例題　決算にあたり、当期首に取得した自社利用のソフトウェア100,000円について定額法により償却を行う。なお、当該ソフトウェアの利用可能期間は５年と見積もられた。**

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **ソフトウェア償却** | **20,000** | **ソ フ ト ウ ェ ア** | **20,000** |

ソフトウェア償却：取得原価100,000÷５年＝20,000

# 研究開発費・ソフトウェア　問題

**問題1**　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　研究開発目的で機械300,000円を取得し、代金は現金で支払った。なお、当該機械は他の目的で使用することはできない。

②　研究に用いるために材料100,000円を現金で購入した。

③　2030年4月1日に取得した自社利用のソフトウェア200,000円を決算にあたり、5年で定額法により償却する。なお、決算日は2031年3月31日である。

# 研究開発費・ソフトウェア　答案用紙

**問題1**

| | 借方科目 | 金　額 | 貸方科目 | 金　額 |
|---|---|---|---|---|
| ① | | | | |
| ② | | | | |
| ③ | | | | |

# 研究開発費・ソフトウェア　解答解説

**問題1**　**解答**

| | 借方科目 | 金　　額 | 貸方科目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 研究開発費 | 300,000 | 現金 | 300,000 |
| ② | 研究開発費 | 100,000 | 現金 | 100,000 |
| ③ | ソフトウェア償却 | 40,000 | ソフトウェア | 40,000 |

**問題1**　**解説**

①　研究開発目的で使用され、他の目的に使用できない機械は「研究開発費」として処理します。

| 借方科目 | 金　額 | 貸方科目 | 金　額 |
|---|---|---|---|
| **研究開発費** | **300,000** | **現金** | **300,000** |

②　研究開発目的で使用される材料は「研究開発費」として処理します。

| 借方科目 | 金　額 | 貸方科目 | 金　額 |
|---|---|---|---|
| **研究開発費** | **100,000** | **現金** | **100,000** |

③　ソフトウェアは無形固定資産ですので、直接法で記帳します。

| 借方科目 | 金　額 | 貸方科目 | 金　額 |
|---|---|---|---|
| **ソフトウェア償却** | **40,000** | **ソフトウェア** | **40,000** |

ソフトウェア償却：200,000÷5年＝40,000